



「未来の東京」戦略（案）

令和3（2021）年2月
東京都

～渋沢・後藤の精神を受け継ぎ、新たな地平を切り拓く～

「爆速」デジタル化で世界からの遅れを乗り越え、国際競争に打ち勝つ

◆ DXの推進で「未来の東京」を切り拓く

- ▶ スマート社会では、行政や民間企業等が有するビッグデータが都市の大きな強みとなる。都市のDX（デジタルトランスフォーメーション）を進めて新しい価値の創出につなげていく。
- ▶ 新型コロナを契機に、あらゆる分野でDXを強力に推進し、「未来の東京」を切り拓く。



◆ 行政のデジタル化を徹底する

- ▶ 行政のデジタル化が進む国は、スマートフォンで完結する世界である。あらゆる手続きをスマホからワンストップで解決するため、書類やはんこが必要なアナログ世界から抜本的に転換する。
- ▶ ユーザー（都民）目線で一刻も早く行政のデジタル化を成し遂げる。



◆ デジタルデバイドで取り残される人を生まない

- ▶ コロナ後の社会は、デジタルが基幹インフラになる。環境による格差を生まないため、いかに誰もが使えるものとしていくかが重要である。
- ▶ 高齢者、障害者など、オンラインで情報を得ることが難しい人へのきめ細かいサポートなどを通じて、デジタルデバイド（情報格差）で取り残される人を生まない社会をつくる。



「爆速」デジタル化で世界からの遅れを
乗り越え、国際競争に打ち勝つ

◆ スタートアップの力で変革を加速させる

- スタートアップは、DXの鍵となる技術やサービスをイノベーションで生み出し、多様化する社会課題を解決する重要な役割を果たしている。
- 積極的にスタートアップを活用し、育てることで、DXを更に加速させ、東京をイノベーションあふれる都市へと変貌させる。



◆ アジアで一番強い経済・金融都市をつくる

- 「国際金融都市ランキング」で、東京は4位と、近年は上海、香港、シンガポール等との間で激しい競争を繰り広げている。外資誘致や人材確保等に取り組み、圧倒的なアジアナンバーワンを目指していく。
- DXが加速化した社会において、どのような産業・社会を創るべきか、確固たる思想を持ち、戦略的にマーケットをつくり上げる。そして、産業や社会のトランスフォーメーションを具現化する。

国際金融都市ランキング (2020年9月)

順位	都市名
1位	ニューヨーク
2位	ロンドン
3位	上海
4位	東京
5位	香港
6位	シンガポール
7位	北京
8位	サンフランシスコ
9位	深圳
10位	チューリッヒ

【備考】：本ランキングはG20/アジア・太平洋経済合作フォーラム(APEC)の「国際金融都市センター指数(GFCI)」を基に作成

◆ コロナ禍を産業構造の大転換につなげる

- コロナ禍では、オンラインを活用した文化・スポーツ体験など、「リアル」と「バーチャル」が融合したサービスが生まれている。
- 人々の生活スタイルの変化等を見据えた新サービスの展開や業態転換など、デジタルを駆使した前向きな産業構造の大転換につなげていく。



「『未来の東京』戦略」を貫く基本戦略

「『未来の東京』戦略」は、4つの「基本戦略」の下に、「目指す2040年代の姿」を描き、その実現に向けた「2030年に向けた戦略」と、戦略を推進する「推進プロジェクト」に都庁の総力を挙げて取り組んでいく。

基本戦略1

バックキャストの視点で将来を展望する

- 不確実性が増す中であって、従来の延長線上の発想ではなく、時代の先を見据えた取組を進めていかなければならない。より長期的な視点を持ち、想像力を働かせ、大胆な発想で政策を考える必要がある。
- まず、目指すべき未来を想定し、そこから逆算して、現在からそこに至る道筋を定めるバックキャストの手法を取り入れる。
- その際、少なくとも一世代先を見据えた取組が必要であることから、今の子供たちが大人になり社会で活躍し、団塊ジュニア世代が高齢期を迎える時期である、おおむね四半世紀先の2040年代を念頭に議論する。

基本戦略2

民間企業等、多様な主体と協働して政策を推し進める

- 人々の価値観や社会構造が変化中、都民目線に合った行政サービスを提供し続けるためには、都庁だけでなく、社会課題の解決に役割を果たす民間企業を含む、多様な地域社会の担い手との連携・協働が不可欠である。
- NPO等はもちろんのこと、例えば、ソーシャルアントレプレナー（社会的企業家）や課題解決型スタートアップ、デジタルを活用するシビックテックなどは、社会をより良いものに変える斬新なアイデアを生み出し、社会課題の解決に貢献している。
- 東京というフィールドで活躍する、多様な主体と様々な形で連携・協力する協働スタイルを定着させ、政策を強力に推し進めていく。

「『未来の東京』戦略」を貫く「基本戦略」

基本戦略3

デジタルトランスフォーメーション（DX）*で「スマート東京」を実現

○ 生活のあらゆる場面において、スマートフォンをはじめ、ICTやインターネットといったデジタルを通じてサービスが提供されることが当たり前の社会が到来する。デジタルの力で都政のQOS（クオリティ・オブ・サービス）を飛躍的に向上させる。そして、都民のQOL（クオリティ・オブ・ライフ）を高めていく必要がある。

○ 都民の様々な課題を解決するために、ツールとしてデジタルトランスフォーメーション（DX）がある。都が進める政策推進に当たって、AIやIoT、その基盤となる5Gネットワークといった先端技術を積極的に活用することにより、都市全体がスマート化し、全ての人が快適に暮らし働くことができる社会を築き上げていく。

* ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させるという概念

基本戦略4

時代や状況の変化に弾力的に対応「アジャイル*」

○ 「『未来の東京』戦略」において示す、目指す未来の東京の姿の実現に向かって、都庁の総力を挙げて取組を進める。

○ もとより、一朝一夕に実現できるものではなく、目指す姿に到達する道筋も一つではない。取組の進捗や社会環境の変化により、更に良い方法やより効率的な方法が見つかる場合もある。時代や状況の変化に応じて、戦略やプロジェクト自体も弾力的に対応（アジャイル）し、その内容を見直していく。

* 「アジャイル（agile）=俊敏な、すばやい」の言葉の意味から、時代や状況の変化に柔軟かつ迅速に対応すること

我々が目指す未来の姿

未曾有の危機を乗り越え、未来を切り拓く

- 歴史の大転換点を迎え、様々な分野・場面において**パラダイムシフト**が起こる。変化のスピードは、100年に1度とも言われる未曾有の危機によって加速度を増している。**創造力を逞しく持って夢を描き、未来を切り拓いていく必要がある。**
- 例えば、**イノベーションは、新たな価値を創造し、社会に大きな変化・変革**をもたらす。日常生活では、交通手段として、地上や地下だけでなく、空飛ぶクルマなど空中といった空間の使い方や、シェアリングエコノミーをはじめとするモノの所有の仕方、フィジカル（現実）空間とサイバー（仮想）空間の融合など、人々のライフスタイルは劇的な変化を遂げていくことが想定される。
- また、人生100年時代を迎え、いくつになっても健康でいきいきとした方が増えていく。「**高齢者**」のイメージの見直しや「**生産年齢**」の捉え方など、**長寿時代**に即した社会の活力を更に引き出す仕組みを模索する時期に来ている。
- 仕事面についても、DXの推進や、テレワーク、副業・複業、フリーランスなど、場所を問わない**多様な働き方が広く浸透**し、会社の役割やオフィス、本社機能のあり様も大きく変わっていく。

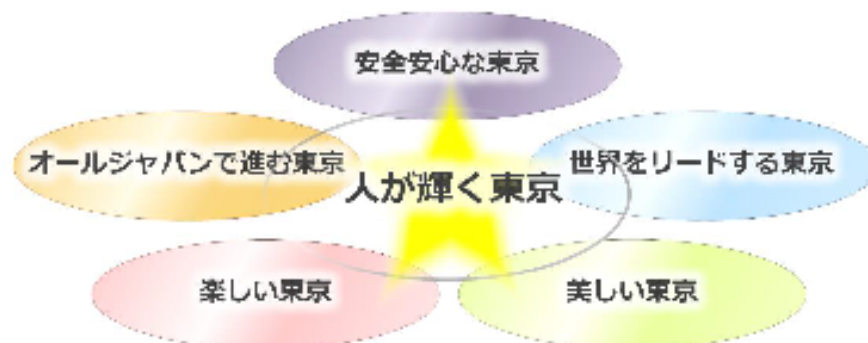
「人」の力を引き出し、輝かせる

- 世の中の動きは速く、予測不可能な変化も生じ得る。不確実な時代を生きるには、これまでのロールモデルに頼るのではなく、**一人ひとりが、個性や能力を最大限に伸ばし、自らの希望や意思に基づいて、人生を選択**できる環境を整えていく必要がある。
- 最も重要なのは、東京の活力の源泉である「**人**」を**守り育てる**ことである。**未来を担う子供への投資に本気で取り組み**、世界に通用する「**人**」を育てる。子供が笑顔で元気に育つよう、子育てを社会全体で支える。いくつになっても学び、チャレンジを続けることができる環境を整える。貧困の連鎖や新たな格差を生まないセーフティネットの更なる充実など、子供から高齢者・女性・障害者・外国人など、誰もが活躍できる環境を整えていく。
- また、コロナ禍で、当たり前だった人の交流が途絶え、**人と人とのつながりの重要性を再認識**させられた。リアルとバーチャルのハイブリッドにより、新たな時代にふさわしいつながりを紡ぎ出していく。人と人をつなぐ、未来へとつなぐなど、「**つなぐ**」をキーワードに**人に寄り添い**、多様性や包摂性に富んだ、**人が輝く東京を実現していくことを政策の基軸**とする。

我々が目指す未来の姿

デジタルの力で世界をリードする

- コロナ禍で社会のデジタルシフトが加速している。こうした大きな変化・変革は、より良い社会を実現する好機と捉えることもできる。例えば、
 - 人口減少局面にあって、AI等の先端技術の伸長は、人の仕事を奪うのではなく、むしろ業務の省力化や効率化など、人手不足に直面する東京の強みとなり得る。
 - 世界に先駆け「超超高齢社会」を迎える東京が、介護ロボットや遠隔医療などの新サービスを次々と実装することで、今後同様の社会を迎える世界のモデルになり得る。
 - 気候変動に対する先進的な行動や新技術の開発が、地球規模の課題の解決につながり得る。
- 都市間競争が熾烈さを増す中、DXを根子にSDGs（社会のサステナビリティ）と企業の稼ぐ力（企業のサステナビリティ）を両立させ、イノベーションが次々と生まれる **世界をリードする東京** を実現していく。



東京が持つ多様な魅力を更に高める

- 都市の個性は、スマート化による「利便性」に加え、「面白さ」や「楽しさ」、「自然」といった心の豊かさを満たす要素で決まる。
 - 高度に整備されたインフラや治安の良さといった **安全安心な東京**
 - 伝統文化やエンターテインメントなど、様々な芸術・文化が人々を魅了する **楽しい東京**
 - おいしい水やきれいな空気、豊かな緑など、自然と共生する **美しい東京**
- といった、東京が培ってきた他都市にはない多様な魅力を更に高めていく。

世界でオンリーワンのサステナブルシティを目指す

- 我々が目指す東京の実現に向けて、「環境負荷低減と経済成長の両立」や「自然と高度な都市機能の調和」などの複合的な課題を、テクノロジーを最大限に駆使し、同時に解決していく道筋を示していく。
- さらに、魅力にあふれた東京が、日本各地と連携を深めることで、日本全体の発展にも寄与し、真の共存共栄につながる **オールジャパンで進む東京** を実現していく。
- こうした東京を目指すことで、「セーフシティ」、「ダイバーシティ」、「スマートシティ」の3つのシティが進化し、「成長」と「成熟」が両立した **世界でオンリーワンのサステナブルシティ** を目指していく。

ビジョン12 スマート東京

デジタルの力で東京のポテンシャルを引き出し、
都民が質の高い生活を送る「スマート東京」（東京版Society 5.0）

目指す2040年代の東京の姿

- 都民生活や都市全体にデジタル技術を駆使し、「自然の豊かさ」と「経済の豊かさ」が両立する、持続可能でスマートな、世界で最もQOLの高い都市に
- 高速モバイルネットワークが東京2020大会のレガシーとして発展し、21世紀の基幹的公共インフラである高速通信網の分野で東京が世界をリード
- 都庁、国の機関、都内全区市町村は、「完全デジタルガバメント」となり、行政手続は自宅からオンラインで、ワンストップ・ワンストップで完了
- 東京の世界的な信頼を後ろ盾に、「21世紀の石油」であるデータが集まる「世界のデータセンター」となり、東京発の国際標準やデータビジネスが多数誕生

